

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 24 年度第 4 回情報教育研究委員会情報専門教育分科会 議事記録

I. 日 時：平成 24 年 8 月 20 日(月)午後 1 時 30 分～午後 5 時 30 分

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 参加者：大原主査、渡辺委員、高田委員、斎藤アドバイザー、企業アドバイザー：ネットマークス
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 検討事項

1. 情報通信教育における学士力の考察について

- ・ 前回更新をした到達目標 4 は、豊かな社会の実現が考えられる卒業研究をイメージしてまとめた。今回は、更新した到達目標 4 に合わせて 1 から 3 を見直すことにした。
- ・ 到達目標 1 の一般レベルは大規模システムとして事例が提案できることにし、専門レベルは事例について説明ができて問題を解くレベルを考えた。理解や説明できるレベルを設定した。
- ・ 到達目標 2 はツールの利用にシンプルとし、専門レベルでシミュレーションを変更し、計測を計測・調査とし、システム開発は目標の 3 に移行することにした。
- ・ 到達目標 3 の一般レベルで開発工程そのものは出来なくても、組織活動サイクルとシステムのライフサイクルの理解レベルとした。
- ・ 到達目標 4 の専門レベルでは、新規提案までできるのか、応用機能を提案できるのかの意見があり、含まれないとして提案から新規の文字をとることを検討した。倫理については意見の主張までは蒸すかしいのではないか、技術者の在り方を考察出来るレベルではどうかの意見があった。

2. 教育改善モデルについて、情報通信系教育の到達目標 4 で検討

- ・ 期待される効果としては、大学間のプロジェクトで複眼的な視点や積極的な姿勢を身に付け、協働の能力を高め、社会の専門家から評価で企画・設計・活用の専門的知見を深めることにした。
- ・ 学習環境は、産学連携プラットフォーム、e ポートフォリオ、e ラーニング、ファシリテーターが必要との意見でまとめた。
- ・ 点検・評価・改善は、評価シート、e ポートフォリオなどの情報を教員間で共有し、評価も連携しておこなってはどうかの意見があり、プラットフォームでの意見交流から改善を進めす形にまとめることにした。
- ・ 運営上の問題及び課題は、産学連携体制、ファシリテーター、e ポートフォリオ、e ラーニングを整備することにした。

3. 教育改善モデルについて、コンテンツ・サービス系教育の到達目標 4 で検討

- ・ 学生が身につける能力は、専門レベルの情報表現とし、表現領域とコンテンツ・イノベーションにした。
- ・ ねらいは、制作工程中心でコンテンツ・イノベーションに取り組みが少ないことに注目して、経済的価値を見据えた構想・開発できることを目指すことにした。
- ・ 仕組みは、産学連携からクライアント要望を受け、クリエイターとしてコンテンツ・プロダクションの提案をすることを考えた。

V. 今後の予定

- ・ 情報通信系の教育改善モデルは「到達目標 3」の継続検討を行う。
- ・ コンテンツ・サービス系の教育改善モデルは「到達目標 4」の継続検討を行う。
- ・ 教育力及び学士力の背景と到達目標の解説を次の段階でまとめる。
- ・ 次回 9 月 8 日(土)及び 15 日(土)を予定。